

## 育児情報に関する研究（第1報）

### 母親の情報収集に関する現状調査

研究第2部 斎藤 幸子・平山 宗宏

研究第1部 千賀 悠子

研究第7部 須永 進

愛育病院 岡本 暁

#### 要旨

現代は育児に関する情報が溢れ、母親らの中にはその選択に迷い不安や混乱に陥る者があるといわれる。情報の提供側、受け手、伝達手段それぞれに問題点が考えられるが、今回はまず受け手の実情を把握することを試みた。1～3歳までの児をもつ母親を対象に、全国14か所で質問紙調査を行なった。

回答数は851例。情報収集について過半数（57%）が積極的、「自然にはいってくる情報で十分」も34%と全国的にみて情報の量としては満たされていた。情報により戸惑ったり困ったりした経験も過半数（54%）にあった。その程度の強い「ノイローゼ状態・かなり悩んだ」は計12.7%あり、これに影響を及ぼしていたのは自己否定や育児に対するマイナスイメージ、など母親の内的要因で、周囲のサポートの有無、職業の有無、家族構成など外的要因とは関連がなかった。情報の氾濫する中で「賢い情報選択を」と母親たちは期待されているが、内的な原因で情報選択に戸惑っている母親にも目を向け、今後は情報提供側の問題を分析し、それぞれに適した情報環境のあり方を模索していきたい。

見出し語：育児情報、育児法、早期教育、母親

Study of information on child care

Recent situation of information gathering by mother

Sachiko SAITO, Munehiro HIRAYAMA, Yuuko CHIGA, Susumu SUNAGA, Akira OKAMOTO

#### Abstract

Information on child care are overflowing today, and it is said some mothers are perplexed what to choose and thrown into anxiety or confusion. It is considered there are problems in offerers, receivers and media, respectively. In this investigation, we tried to get the actual state of the receivers. Investigation was made by a questionnaire into mothers whose children are 1-3 years old at 14 places throught Japan.

Total responses are 851. The majority of 57% of mothers "gathered positiverty" informations of child care, 34% of mothers satisfied with "informations gathered spontaneously". The majority of 54% of mothers had exprience in being perplexed or troubeled by informations: 12.7% had pointed out exprience in being perplexed "a state of neurosis or suffered considerably", the infulnuence on which are inner factors of mothers, e.g. self denial or negative image to child care. There is no relation to outer factors, e.g. whether or not they are supported by persons around, or whether or not they have ocupations, or family members. Mothers are expected "to choose informations intellegently". We must make notice that there are mothers who are perplexed what to choose informations because of thier inner factors.

key words: information on child care, rearing manner, early education, mother

## I はじめに

現代は情報化の時代といわれるが、育児に関しても多くの情報が溢れ、母親の中にはその選択に迷い不安や混乱に陥る者があるといわれる。情報の提供側の問題としては、例えばある事柄が研究などの現場で解明された時とは異なった用法でマスコミに流れたり、科学的事実と研究者の推論の部分がはっきり分けられずに伝えられたりし、極端な場合は情報源によって内容が正反対であるようなことも起きている。また「育児は科学の部分と文化の部分がある」と言われるが、科学の部分はその時代において解明されている部分とそうでない部分がはっきり分けられそうなるものであるが、実際には学会などで論議が別れることなど珍しいことではない。また文化の部分とは生活・風習であって、つい最近の「うつぶせ寝ブーム」のごとく地域・習慣によって異なったり、「添い寝」の禁止と奨励のごとくその時代に科学的とされる学説に影響を受けて変化するものなど、どちらも絶対に正しいものなどないに等しいのではないかと思われる。このように現在の育児情報事情を見ていくと、いかに受け手の情報選択が難しいかが想像できる。

しかし一方、育児情報の内容に混乱があり、伝達の途中に問題があるとしても、情報に振り回されない受け手も存在する。情報で戸惑ったり悩んだりするのは受け手側の問題も考えられよう。本研究は情報の提供側、受け手、伝達手段それぞれの問題点を明らかにし、更にその関連性を分析しようとするものであるが、今回はまず受け手側の実情を把握することを試みた。

## II 研究方法

現在育児中の母親に、育児に関する情報収集の積極度、収集の方法、育児情報による戸惑いや困惑の経験の有無とその程度、それに影響を及ぼすと考えられる母親を取り巻く環境条件や心の状態などをアンケートにより調査を行なった。対象は1～3歳までの児をもつ母親で、全国14か所の保健所、保育園、小児科医院などで質問紙を配布、回収した。回答数は851例であった。(表1)

## III 結果

## 1 調査対象について

母親の年齢は21才から49才で30～35歳未満が最も多く44.5%を占める。平均年齢は32.0歳。就業率は57.0%、子ども数は1人が31.1%、2人が48.4%、3人以上が

20.2%であった。家族構成は核家族が76.5% (母子家庭1.9%を含む) である。

## 2 情報収集に関する積極度

「あらゆる情報を積極的に集めた」74例 (8.7%)、「必要な情報のみ積極的に集めた」398例 (46.8%)、計57%が情報収集に積極的であった。以下「自然に任せていて十分だった」291例 (34.2%)「自然に任せていて情報が多過ぎて困った」21 (2.5%)「自然に任せていて情報が不足して困った」15例 (1.8%)と情報量の過不足による問題は少なく、量的には情報は全国的にほぼ満たされているといえる。調査場所別では危険率1%で有意差があり、東京(保育園を除く)、福岡、仙台、川崎(保育園)に積極的収集の割合がやや多い傾向が見られた。東京・川崎という同じ都市部の保育園でも積極的な母親が多いところとそうでないところがあり、全体でみて母親の職業の有無では差がなかった。

## 3 情報源について

## 1) 利用した情報源

表2のごとく16の情報源について、それぞれを利用したか否か、役に立ったか否かを質問した。最も多く利用されていたのは「友人・隣人の話」92.8%、次いで「自分の母」84.0%、「小児科医」78.5%、と情報源として「人」が重要な役割を担っていた。これに続いて「育児書」「育児雑誌」が70%台、「保健婦」「テレビ」「夫の母」「夫」が60%台を占めた。「ラジオ番組」「ビデオ教材」「電話相談」は10%以下と少数派であった。なお、その他の情報源とは「姉妹」「育児書以外の図書」「保健指導パンフレット」などであった。

## 2) 領域別、役に立った情報源

表3のごとく、病気、栄養、発達など領域別の項目でそれぞれ最も役に立った情報源を「専門家」「本・雑誌」「周りの人」の中から選択してもらった。病気・体質・母乳については「専門家」、離乳食幼児食・知能の発達は「本・雑誌」、行動・排泄・癖は「周りの人」が最も多くを占めており、領域によって最も役に立つとされた情報源は異なっていた。

## 4 話題の育児法について

近年育児雑誌などマスコミで話題となっている育児法

表1 調査対象 (N=851) 表4 やってみたい育児法 (%) と関連項目 ( $\chi^2$  検定) (N=851)

子どもの年齢	1歳	287
	2歳	181
	3歳	383
調査場所	北海道	28
	秋田	92
	宮城	21
	群馬	67
	千葉	106
	東京	282
	神奈川	88
	福岡	22
	長崎	73
	沖縄	72

		やり たい	将来の 人物像	母親の 就業	調査 場所
1	3歳までは母親のもとで育てる	67.1		***	***
2	添い寝	64.0			
3	うつぶせ寝育児	48.5			***
4	1歳すぎまで母乳で育てる	47.7		*	*
5	ベビースイミング	45.1		*	*
6	アレルギー予防の食事	44.8			
7	乳幼児体操教室へ通う	25.4		**	***
8	知能をのばす0歳からの教育	25.3	***		
9	ベビシッターの利用	18.9			***
10	0歳からの語学教育	16.9	**		

\* p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.005

表2 利用した情報源 (%) (N=851)

	利用した	役立った
1	友人・隣人の話	88.1
2	自分の母の話	79.0
3	小児科医の話	75.2
4	育児書	70.3
5	育児雑誌	66.4
6	保健婦の話	59.8
7	テレビ番組	62.5
8	夫の母の話	57.0
9	夫の話	57.2
10	保母の話	53.2
11	新聞	49.2
12	看護婦の話	44.5
13	育児学級・講座	26.7
14	電話育児相談	8.3
15	ラジオ番組	7.8
16	ビデオなどの教材	7.4
17	その他の情報源	4.2

表5 子どもに将来期待する人物像別  
早期教育をやってみたい割合  
(重複回答・%は851に対する)

	合計	0歳 から 知育	0歳 から 語学
全体	851	26.3	17.5
思いやりのある	669	25.7	16.2
人に好かれる	412	31.7	21.2
責任感のある	405	28.2	19.7
素直な	393	25.1	17.1
いきいきとした	393	21.0	14.7
自立した	312	20.3	12.2
自分を主張できる	311	25.1	16.8
やさしい	236	26.7	15.5
協調性のある	198	20.5	12.0
知識のある	156	34.4	26.7
社会の役に立つ	87	26.2	9.4
親思いの	80	35.0	28.8
堅実な	62	21.7	21.3
個性的な	58	16.7	13.0
頭のよい	58	33.3	26.3
リゲーションとれる	56	39.6	24.1
平凡な	27	11.1	7.4
収入のよい	20	73.7	31.3
容姿の美しい	20	40.4	35.0
苦労しない	16	31.3	31.3
社会的地位のある	14	50.0	42.9
おっとりした	13	23.1	7.7
人より優れた	6	66.7	66.7
従順な	3	33.3	0.0
有名な	1	0.0	0.0
無回答 (例数)	23	34	28

表3 領域別、最も役に立った情報源 (%) (N=851)

	専門家	本・雑誌	周りの人
1	病気にすること	57.1	16.3
2	体質にすること	46.4	21.4
3	体の成長・発育	38.7	25.3
4	母乳・ミルク	36.8	33.6
5	離乳食・幼児食	18.6	27.8
6	知能の発達	23.7	31.0
7	排泄	12.6	55.9
8	しつけ	10.3	50.4
9	睡眠	13.3	49.7
10	性格・癖について	16.5	48.1
11	運動・行動の発達	24.2	36.5

早期教育など10項目について、もしこれから又赤ちゃんを育てるとしたらやってみたいか否かを質問し、表4に示した。やりたいの割合が高かったのは「3歳までは母親のもとで育てる」67.1%、「添い寝」64.0%、「うつぶせ寝」48.5%、「1歳過ぎまで母乳で育てる」47.7%などで、「知能がよくなる0歳からの教育」「0歳からの語学教育」は他に比べてそれぞれ25.3%、16.9%と割合は少なかったが、この2項目は子どもに将来どんな人になって欲しいかの質問と関連があった。

表5は将来どんな人になってもらいたいかを25項目から5つ選んでもらった結果で、有意差のあった2項目のクロス集計結果を示した。割合で「収入の多い」「社会的地位のある」「人より優れた」を選んだものが高かったが、全体の数としては20例、14例、9例と少ない群である。むしろ割合に差はあれ、子どもの将来の人物像の各項目に早期教育の2項目をやってみたいとした親がほぼまんべんなく分布していることが注目される。

表4調査場所による差については保健所・保育所・医院などそれぞれの特徴がでたようで、必ずしも地域差とは言えず、これらの施設を利用する母親の生活様式、特に職業の有無などが影響している可能性がある。母親の職業有無では当然のことながら働いていると実行しにくい「1歳過ぎまで母乳で育てる」「3歳過ぎまで母親のもとで育てる」などに差があり、有職者にやってみたいとした割合が少ない。

## 5 情報による戸惑い経験

情報源により内容が食い違っていたり、子どもの実態に当てはまらない場合など戸惑ったり、困ったりした経験があったかどうかでは「戸惑い経験あり」が462例(54.3%)、「戸惑い経験なし」は389例(45.7%)であった。戸惑いの程度の内訳はノイローゼ状態0.4%、かなり悩んだ12.3%、気になる程度40.5%であった。

戸惑いを感じた頻度は1～2回が17.4%、時々が29.1%、しばしばが5.6%であった。

戸惑いの解決法は「時が解決してくれた」26.3%「信頼できる人に相談した」20.6%、「納得するまで更に情報を集めた」6.5%、「いまだに悩んでいる」1.2%であった。時が解決というのは子どもの発達により、問題が解消していったことが考えられる。ここでも情報源として「人」の役割が大きい、自ら納得するまで更に情報を集めるものは少なく、決定権を他者に委ねたようにも考えられる。

表6は戸惑いを感じた情報内容で重複回答であるが、

表6 戸惑いを感じた情報の内容 (重複回答)

	合計	ノイローゼ状態	かなり悩んだ	気になる程度
全体 (人数)	454	0.7	23.1	76.2
病気のこと	147	0.7	22.4	76.9
母乳のこと	133	1.5	28.6	69.9
離乳食・幼児食	124	0.8	25.8	73.4
排せつ	105	—	24.8	75.2
アレルギー	99	—	19.2	80.8
早期教育	92	—	17.4	82.6
母子関係	68	2.9	26.5	70.6
運動や行動の発達	68	—	17.6	82.4
発育	63	—	17.5	82.5
ミルクのこと	62	—	21.0	79.0
睡眠	59	1.7	27.1	71.2
知能の発達	44	—	18.2	81.8
その他	20	—	35.0	65.0
回答数合計 (件)	1084	7	249	828
平均件数	2.4	2.3	2.4	2.4

病気に関することが454例中147(32.4%)、母乳が133(29.3%)、離乳食・幼児食が124(27.3%)と上位をしめた。次いで、排泄、アレルギー、早期教育が多かった。一人当りの戸惑い内容の件数は、全体平均で2.4件・件数・内容とも戸惑いの程度別では差がなかった。

## 6 戸惑い経験と他項目との検討

戸惑いの経験の有無と以下の項目のクロス集計を行なったが顕著な差は見られなかった。しかし「戸惑いの程度」では種々の関連が見られ、戸惑いの程度を強くする要因が働いていることが認められた。

### 1) 周囲のサポートの有無との関連

周囲が母親をサポートしたか否かでは「夫が力になったか」「夫以外で力になってくれた人はいたか」「父母以外に日常的に子どもの世話をする人はいたか」を質問した。全体で見るとなんらのサポートの得られた人は各



項目それぞれ 819例 (90.8%)、826例 (97.1%)、575例 (67.6%) と多くを占めていた。表7—①の通り情報による戸惑い経験の程度別<①ノイローゼ状態またはかなり悩んだ、②気になる程度、③戸惑いなし>の3群でクロス集計を行なったが、いずれも割合がほとんど同じで、統計的にも有意差は認められなかった。家族構成で見ても、祖父母同居の有無 (有り23.5%) と戸惑いの程度は有意差がなかった。

## 2) 母親・子どもの条件別

表7—②母親の職業の有無でも有意差はない。

表7—③地域別では首都圏とその他の地域で危険率5%で有意差があり、首都圏に戸惑い経験ありの割合とノイローゼ・かなりの割合が多い。

表7—④情報に対する積極度とでは危険率 0.5%で有意差があり、「自然に入る情報で十分」としたものに「ノイローゼ・かなり悩んだ」の割合が少なく、「戸惑いなし」が多い。

表7—⑤子どもに関する悩みことでは危険率 0.5%で有意な差が認められ、当然のことながら「子どもに関する悩みことがない」群に「情報による戸惑いなし」の割合が多い。しかし「戸惑いなし」の 390例を検討するとこのうち「子どもの悩みあり」は 253例 (65%)、「子どもの悩みなし」 137例 (35%) と情報による戸惑いがないものでも、65%は子どもの悩みはある。子どもに関する悩みで戸惑いが生じるというだけでなく、他の要因が推察される。

子どもに関する悩みごとの内容 (重複回答) は全体で1位が「性格・癖」185 (21.7%)、2位が「少食」168 (19.7%)、3位「アトピー体質と診断された」154 (18.1%) などであった。

## 3) 母親の心の状態

表7—⑥ 子どもを育てている時の気持ち (育児、自分について) 19項目について<よく思う、時々思う、あまり思わない、全く思わない>の4段階で設問した。うち戸惑いの程度と有意な差が7項目で認められた。自分のやっている育児に否定的で、疲労感がある、自分は融通のきかないところがある、と感じているものなどに戸惑いの程度の強いものが多い傾向が見られる。

以上のごとく母親の条件に関する各項目の戸惑いの経験の程度との関連では、母親の持つ外的要因 (周囲のサ

ポート状況、職業の有無) より、母親の内的要因 (自己評価・育児イメージ、情報収集に対する積極性、子どもに関する悩みごとの有無) に認められた。そこで、母親の心の状態について更に分析を試みる。

## 7 母親のタイプ別情報による戸惑い経験の程度

心の状態に関する19項目について林式数量化3類により、1~3軸のカテゴリスコアを算出し、1軸が育児に対するイメージ、2軸は自分に対する評価、が読みとれた。個々のサンプルスコアにより、サンプルのクラスター化を行ない、以下のごとく対象を4つのグループに分類した。

- Aグループ 自己評価 (-) 育児イメージ (-)
- Bグループ 自己評価 (-) 育児イメージ (-)
- Cグループ 自己評価 (++) 育児イメージ (+)
- Dグループ 自己評価 (+) 育児イメージ (++)

表8の通り19項目とクロスさせ、各グループの性格傾向を分かりやすくやや断定的に表現すると以下の通りになる。

Aグループ：自分は行動力・決断力・責任感がなく、母としてよくやっているとは思えない。子どもは嫌いではないが、育児は張り合いがなく、自分のやりたいことではないと思っている。(育児回避傾向)

Bグループ：不安緊張が高く自分に自信がない。子どもは可愛い育児は負担で疲れ気味。(育児疲れ傾向)

Cグループ：自己肯定強い自信家。子どもが可愛く、育児もなんなくこなす、負担を感じない。

Dグループ：自分、特に母親としての自分に自信がある子どもといると楽しく、育児は生きがい。

4グループ別に「情報による戸惑いの程度」をみると危険率1%で有意差があり、Bグループに戸惑いの程度が強い者24.3%と多かった。しかし同じく自己評価 (-) 育児イメージ (-) のAグループは「戸惑いなし」が56.5%と4グループ中最も多い。Aグループは「育児は自分のやりたいことではない」と思っているものが多く、いわば育児に関心のないグループであり、情報に戸惑うことも少ないのかもしれない。育児に関心があればこそ情報にも敏感に反応し戸惑うこともあるのであり、この情報の溢れる時代に戸惑いのない母親もまた分析の必要があろう。母親のタイプ分けは今後更に検討を加える必要がある。

表8 サンプルクラスによるグループ別母親の心の状態

				A	B	C	D	
全体		851	縦%	131	147	189	267	
6 自己評価 +	1) 私には行動力がある	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	116 199 340 185	13.6 23.4 40.0 21.7	1.5 14.5 38.9 45.0	4.8 21.1 34.7 39.5	19.6 29.6 39.7 11.1	20.6 26.2 47.2 6.0
	2) 私には決断力がある	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	82 250 350 153	9.6 29.4 41.1 18.0	1.5 21.4 35.9 41.2	- 19.7 40.8 39.5	20.6 31.2 44.4 3.7	13.1 37.5 44.2 5.2
	3) 私には責任感がある	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	202 313 261 61	23.7 36.8 30.7 7.2	10.7 26.7 38.9 23.7	17.7 36.7 34.7 10.9	29.6 37.6 30.7 2.1	31.1 42.3 26.2 0.4
	4) 私は母親としてよくやっている	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	101 210 371 151	11.9 24.7 43.6 17.7	- 13.0 33.6 53.4	9.5 23.8 43.5 23.1	9.0 29.6 49.7 11.3	20.2 28.8 47.9 3.0
自己評価 -	5) 私は頼りない	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	79 171 418 175	9.3 20.1 49.1 20.6	14.5 20.6 49.6 15.3	32.0 25.9 40.1 2.0	- 11.1 35.4 53.4	0.4 21.0 68.9 9.7
	6) 私は融通がきかない	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	59 138 430 212	6.9 16.2 50.5 24.9	8.4 16.0 51.9 23.7	26.5 24.5 42.9 6.1	0.5 9.0 41.8 48.7	1.5 15.7 66.3 16.5
	7) 私は緊張しやすい	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	151 219 308 165	17.7 25.7 36.2 19.4	13.0 28.2 41.2 17.6	43.5 28.6 22.4 5.4	1.6 17.5 32.3 48.7	16.5 31.1 43.8 8.6
	8) 自分のやり方がよいかどうか不安になる	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	118 298 385 39	13.9 35.0 45.2 4.6	13.0 40.5 42.0 4.6	42.9 34.0 22.4 0.7	2.6 28.6 55.6 13.2	7.1 36.3 56.2 0.4
育児イメージ +	9) 育児には張り合いがある	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	297 304 207 33	34.9 35.7 24.3 3.9	6.1 34.4 38.2 21.4	25.2 49.0 25.2 0.7	34.9 36.5 28.0 0.5	54.3 31.8 13.9 -
	10) 育児は自分のやりたいことだ	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	170 240 289 125	20.0 28.2 34.0 14.7	2.3 11.5 35.9 50.4	9.5 31.3 46.9 12.2	9.0 38.1 39.2 13.8	41.9 32.2 24.7 1.1
	11) 子どもといると楽しい	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	644 165 36 6	75.7 19.4 4.2 0.7	45.8 42.0 9.9 2.3	67.3 27.9 4.8 -	81.0 15.3 2.6 1.1	88.8 8.6 2.6 -
	12) 子どもを可愛いと思う	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	740 80 19 5	87.0 9.4 2.2 0.6	68.7 24.4 6.9 -	85.7 13.6 -	94.2 4.2 1.6 -	94.0 3.7 0.7 1.5

表8 一つづき

				A	B	C	D
育児イメージ	13) なぜ自分ひとりでやらなければならないのかと思う	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	62 7.3 196 23.0 371 43.6 217 25.5	12.2 20.4 32.8 31.3 23.7	20.4 31.3 39.5 39.7 8.8	2.1 16.4 41.8 39.7 27.0	2.2 17.2 53.6 27.0
	14) 育児から開放されたい	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	69 8.1 215 25.3 453 53.2 110 12.9	23.7 29.0 41.2 6.1	18.4 32.0 43.5 6.1	3.2 18.5 60.8 17.5	0.4 24.7 57.3 17.6
	15) 育児は大変だ	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	460 54.1 252 29.6 125 14.7 6 0.7	63.4 26.0 9.9 0.8	75.5 20.4 4.1 -	39.2 33.9 25.4 1.6	49.4 36.0 14.2 0.4
	16) 私は疲れている	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	143 16.8 246 28.9 371 43.6 86 10.1	15.3 30.5 43.5 10.7	34.7 32.7 31.3 1.4	8.5 21.7 43.4 26.5	14.6 31.5 51.3 2.6
	17) 育児以外のことをやりたい	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	183 21.5 269 31.6 323 38.0 60 7.1	26.7 31.3 36.6 5.3	32.0 32.7 32.7 2.7	19.6 28.6 42.9 9.0	16.5 33.7 41.6 8.2
	18) 育児は単調だ	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	16 1.9 69 8.1 178 20.9 581 68.3	6.9 6.9 22.9 63.4	1.4 13.6 27.2 57.8	0.5 5.3 21.7 72.5	0.4 6.7 18.4 74.5
	19) 育児はつまらない	よく思う 時々思う たまに思う 全く思わない	14 1.6 33 3.9 158 18.6 631 74.1	0.8 9.9 27.5 61.8	5.4 6.1 29.3 59.2	- 0.5 13.2 86.2	0.4 1.5 14.6 83.5

表9 母親のタイプ別情報による戸惑いの程度 (χ=32.71 \*\*)

		縦%	A	B	C	D
			自己(-) 育児(-)	自己(-) 育児(-)	自己(++) 育児(+)	自己(+) 育児(++)
全体	851		131	147	189	267
ノイローゼ・かなり 気になる程度	108	12.6	16.8	24.3	8.6	10.9
戸惑いなし	346	40.7	26.7	34.7	43.5	46.8
	389	45.7	56.5	41.0	47.8	42.3

IV 結論

過半数(57%)の母親が育児に関する情報を「積極的に収集」、また「自然にはいつてくる情報で十分」は34%と全国的にみて情報は量としては満たされていた。

情報により戸惑ったり困ったりした経験有りも過半数(54%)あった。戸惑いの程度が強い「ノイローゼ・かなり悩んだ」は12.7%あり、これに関連が見られた母親の因子は周囲のサポートの有無、職業の有無、家族構成

など外的要因ではなく、自己否定や育児に対するマイナスイメージなど母親の内的要因であった。

情報の氾濫の中で「賢い情報選択を」と母親たちは期待されている。しかし、内的な原因で情報選択に戸惑っている母親がいることにも目を向け、今後は情報内容や伝達的手段について情報提供側の問題を分析し、それぞれの特性を持つ母親のタイプに適した情報環境のあり方を模索していきたい。